

1 将来都市像ってなに？（坂本アドバイザー）

将来都市像とは、簡単に言えば、第7次総合計画の看板となるキャッチフレーズです。第6次総合計画では、「思いやり 支えあい 手と手をつなぐ 大家族たかはま」ということで、前回市民のみなさまと決定したと思います。このキャッチフレーズ・将来都市像を「こうゆう高浜市になりたいよ」ということを言葉でみなさんにお伝えするのが将来都市像という形になります。

流れとしては、市民会議のみなさまだけではなく、広く高浜市の方にこのキャッチフレーズを考えて頂きたいということで、6月7月にかけてキャッチフレーズの公募をします。そのあと公募の中で出た案を市民会議の方で話をして、いくつかの候補に絞ります。そして、今回は市内の中学生の方に、選ばれた候補の中から、投票をしていただきます。そして最終的にこの市民会議で1つの案に決めていきます。

今回の第7次総合計画は行政の想いもあって市民全体で考えていきたいと思っています。この会議自体が公募でできているんですけど、まだまだ参加いただけていない方がたくさんいますので、その方たちの意見もキャッチフレーズを広く募集するということが市内全域から募集する、そしてこれから高浜市を担う中学生の方にも投票に関わっていただくということで、市民を巻き込んだ形となります。今日はその元となるキーワードとキャッチフレーズを考えていきます。資料1のピラミッドで行くと一番下のところです。ここを今日みなさんで考えていきたいと思っています。今までは話を聞くことが多かったのですが、今日はたくさん意見交換をしていただいて、このキーワードを決めていきたいと思っています。

～各テーブルで自己紹介を実施～

最終的にキャッチフレーズを決めて行きますが、いきなりキャッチフレーズを決めて行くとみなさんの想いがありますので、いろんな意見が出てくると思います。まずは、この市民会議で少し方向性を決めて行きたいなと思いますので、行政の方でもいろいろ総合計画について話をしている会議があるので、そちらの意見を出しながら、キャッチフレーズを考える前に、「どうゆう高浜市になったらいいかな？」「そのためには、どうゆうことをしていったらいいかな」ということを話し合い、その後、そのために大切なキーワードは何か、みなさんで単語を出し合って、最後にそれを基にキーワードを作りたいと思います。

そして、この会としての意見が一本化されます。皆さんで考えた結果を、市民のみなさんに出すと、「あ、市民会議はそういうことを話したんだ。では、それに沿って私はこんなキャッチフレーズを出そう」という風に一つの線を区切っていきたいと思っています。ということで、それに向けて順番にワークショップをやっていきます。

（テーブル毎に、模造紙や付箋を使って個人ワークやグループでの共有、会場全体での共有を実施）

2 10年後の「なりたい高浜市」について考えよう！！【ワークショップ①】(坂本アドバイザー)

(1) みんなが思う理想の高浜市を語りましょう

高浜市がこうなったらいいな。なりたい高浜市について書いてください。たとえば子育て日本一になりたいとか、SDGs推進日本一とか、年齢関係なく横のつながりができてほしいとか、伝統文化とか伝統産業とかをもっと盛り上げたいとか、みなさまが思う10年後の理想を書いていただく。それをなんとなくあてはまる場所に貼ってってください(黄色い付箋)

【行政が考える課題などの紹介(主なもの)】

- ◆協働のまちづくり：重要なこと①市職員の人材育成が必要である。②地域(人と人)のつながりの強化(どんどん人間関係が薄れていく)③デジタル化を進めていく必要がある
- ◆生涯学習：高浜市も映画も撮っていますが、そういった生涯学習、文化とか芸術、図書館とか美術館とかいった生涯学習について、高浜市の文化を次世代につなげていく必要がある。菊人形とか、瓦とか伝統工芸をしっかりとつないでいく必要がある。あとは、図書館とかかわら美術館の在り方を考えていく必要がある。
- ◆学校教育については、①「子どもたちの学び」を高めたい・深めたい、広めていった方がいい②個人の学びと集団の学びのバランスを考えることが必要(グループ・クラス・学年・学校など)③タブレットや電子黒板の導入は大きな変化であり、これを上手に活用し「子どもたちの学び」へつなげる必要がある。
- ◆子育てに関しては、待機児童「0」に向けて取り組んでいく必要がある。
- ◆環境：第2回で話があったSDGsの話につながりますが、2022年にプラスチック資源(洗面器やおもちゃ)もどんどんリサイクルしていくことになっているので、ゴミ出し分別品目の見直しが必要。資源回収の仕組みの変更も考えていく必要がある。高浜市は周りの市に比べると丁寧に行われている方ですけど、さらにですね、SDGsの観点からも、プラスチック資源を含めた分別の見直しが必要

【個人ワーク+グループワーク+会場全体での共有】

(2) 理想の高浜市に近づくために必要なことを考えよう

では、ワークショップつづけますので、スクリーンの方をご覧ください。今日の前にある模造紙(黄色い付箋)は、みなさんが考える理想の高浜市、こうなりたい、こういう人になりたい。という理想が書いてあります。これが総合計画でいう10年後の未来がかかれています。では、それに向けて今から10年間なにをすればいいか考えていきたいと思います。例えば、ベトナム語日本一というのがありましたね、そのために、「高浜市はベトナム語であいさつをする日本一の町」10年後こうありたいとすると、今から10年間でなにをしなきゃいけないか考えて頂きます。到達点が貼ってある付箋のために

今何をしなきゃいけないか考えていきます。ベトナム語あいさつ日本一ということは、まずはベトナム語を勉強する場所が必要かもしれない。あとは、ベトナムの方と交流する場が必要かもしれない。今何をしなきゃいけないか、10年間で何をしなきゃいけないか考えていきます。この付箋（黄色い付箋）を達成するためには、「これが必要」というのをどんどん書き加えて行ってもらいます。お手元にあるピンク色の付箋に書いて黄色の付箋の近くに貼ってください。

【個人ワーク+グループワーク+会場全体での共有】

今皆さんの目の前には、10年後のなりたい高浜市と、なりたい人が黄色い付箋に書かれているのと、ピンクの付箋に今何したらいいかをだしていただきました。一度休憩をはさんで今日の目標であるキーワードとキャッチフレーズを考えていきたいと思います。お手元の資料の中に、参考資料1に、第7次総合計画審議会審議会委員より出た意見という資料があります。こちらは、皆さんの会議体は市民のみなさんでつくる会議体なんです、その上にもっと少ない人数の会議体で各分野の方が参加している会議体で出た意見となります。休憩しながら読んでいただければと思います。また、ほかの机の付箋も見ていただいてもいいかと思います。

3 My Best 「合言葉」を絞り出そう！【ワークショップ②】(坂本アドバイザー) 「理想の高浜市」に向かうためのキーワード+キャッチフレーズを考えよう

後半のワークショップでは、キャッチフレーズまで決めていきたいと思います。キャッチフレーズを決める前に6月に市民の方へ広くキャッチフレーズの募集を行います。その時に、ヒントとなるキーワード、何もない状況からキャッチフレーズを考えてくださいというのは難しいので、今みなさんで考えて付箋でだしていただいた意見をキーワード化して、それを市民の皆さんへ提示しながらキャッチフレーズを考えてもらおうと思っています。次は、青色の付箋を持っていただいて、今出た黄色とピンクの付箋からキーワードとなることを考えて

すでにキーワード化したものもありますね、こちらのテーブルですと、地域活動コミュニティのところ、高齢者にやさしいまちづくり、若者と高齢者がたくさん関わる市、バリアフリー化とか小学校と高齢者の施設の交流とか、高浜の伝統文化とかいろいろありますが、これらをキーワードにしていきたいと思います。長くなるよりは短い方がいいので、例えば今言った若者と高齢者とか、小学校と高齢者施設の交流とかでしたが、世代間交流とか、でたものをキーワード化してもらいます。難しいかな。例えば「高齢者が元気」とかそういったものでもいいです。「英語を話せる日本一を目指す」とか

例えば「国際交流化」とか「英語力日本一」とかでもいいですけど、なんでもいいんですが、キーワードにしていく、これから市民のみなさまへお知らせするために、私たちがこういうことを考えてこういったキーワードがでましたよということを考えて頂きたい。例えば、学校のタブレットで日本一だと、「学校のデジタル化」といったもう少し短

いキーワードを何個かつくっていただきたい。「世界に羽ばたくアスリートのいるまち」というのは、「スポーツのまち」とかですね、そういったキーワード化していきたい。まずは、少し個人で考え、そのあとグループではなしていただきます。

いま出た付箋って、こういうことを言っているのだな、高浜市は、こういうキーワードが今後大事なんだな。ということを考えて頂きたい。

【個人ワーク+ グループワーク】

今テーブル毎に様々な意見が出たと思います。最後に今日の最終目的である、キャッチフレーズを作っていきたいと思います。参考までに第6次の総合計画のキャッチフレーズは「思いやり支えあい手と手をつなぐ大家族たかはま」ですね。今みなさまが出していただいたキーワードをもとにキャッチフレーズを考えて頂きたい。キーワードはあくまで参考にしていただいて、今日の皆さんの話し合いのなかで一本はしらを通した意見ですが、これに捕らわれることなくでも全然いいです。

第6次の「思いやり支えあい手と手をつなぐ大家族たかはま」はこういったキーワードをつなげて、つくったという経緯もあるそうなので、こういったものをつなげてでもいいですし、新しくキャッチフレーズを作っていただいても大丈夫です。

お手元の資料の資料4：合言葉を考えるヒントですね、これは第6次総合計画、第7次総合計画の会議の取り回しなどをやっていただいている中川先生からこういったものがキャッチフレーズとして広がりやすいよというヒントがかかれていますので、こちらも参考にしながら、また捕らわれることなく自由に書いていただいてもいいです。

お手元の資料に、「まちづくりの合言葉」と書かれた白紙の用紙があるかと思いますので、こちらに、残り時間をつかって15分くらいで考えて頂いて、会場中央にある「タカポ」に入れてください。これは来月市民のみなさんへ公募をかけるものなので、今日でなかったら後日でも全然いいです。今日出た方は、あのポストの中に入れて行っていただけたらと思います。

参考までに、他の自治体さんがどういったキャッチフレーズを作っているか、名古屋市さんは、新しい時代にふさわしい豊かな未来を創る！世界に冠たる「NAGOYA」へですね。刈谷市さんは、人が輝く 安心快適な産業文化都市。産業文化都市なんとなく、刈谷市さんのイメージありますね。あとはですね、小牧市さんは具体的でおもしろいですね、「1. こども夢・チャレンジNo.1都市 2. 健康・支え合い循環都市 3. 魅力・活力創造都市」これは、今日みなさんが出したキーワードをつなげたような感じだと思います。あとは、こんな町があります、「みんなで支えあう 緑と元気あふれる 住みよいまち」どこの町だろうとなりますよね。こういうキャッチフレーズも多いです。どこでも当てはまりそうなやつですね、いわゆる。「人が輝き 地域と生きるまち」とか「ひとのわで 楽しさつくる みなとまち へきなん」これが碧南ですね。こういった具体的なものもありますけど、先に説明していた小牧市さんとか、そのまちらしいキャッチフレーズもありますね。ぜひ、高浜市らしいキャッチフレーズを作っていただければと思います。

次回会議は6月26日（土）に予定してまして、会議の方法は、今検討しています。50人前後市民会議の方がいるんですけども、やはり来れない方もいますので、WEB会議を使ったものと、実際に来ていただくものとハイブリットで使ったような会議をしようかと、今決めているところです。時間はおって連絡します。

情報提供3件

【行政より】図書館のフォーラム

市制50周年について（笑顔の写真展、第9、記念動画）

【坂本さんより】

子土盛というお酒に使う田植えの開催案内